

ここでは、「目指す状態」に向かっているか(方向性)について、5つの着眼点を用いチェックする手法を解説します。

なお、ガイドライン作成にあたり、協力いただいた自治体の中から、観光まちづくりの核となる創発人材のモデルケースになるであろう2市(結城市、さいたま市)での取り組みを参考に、ケーススタディを行っております。

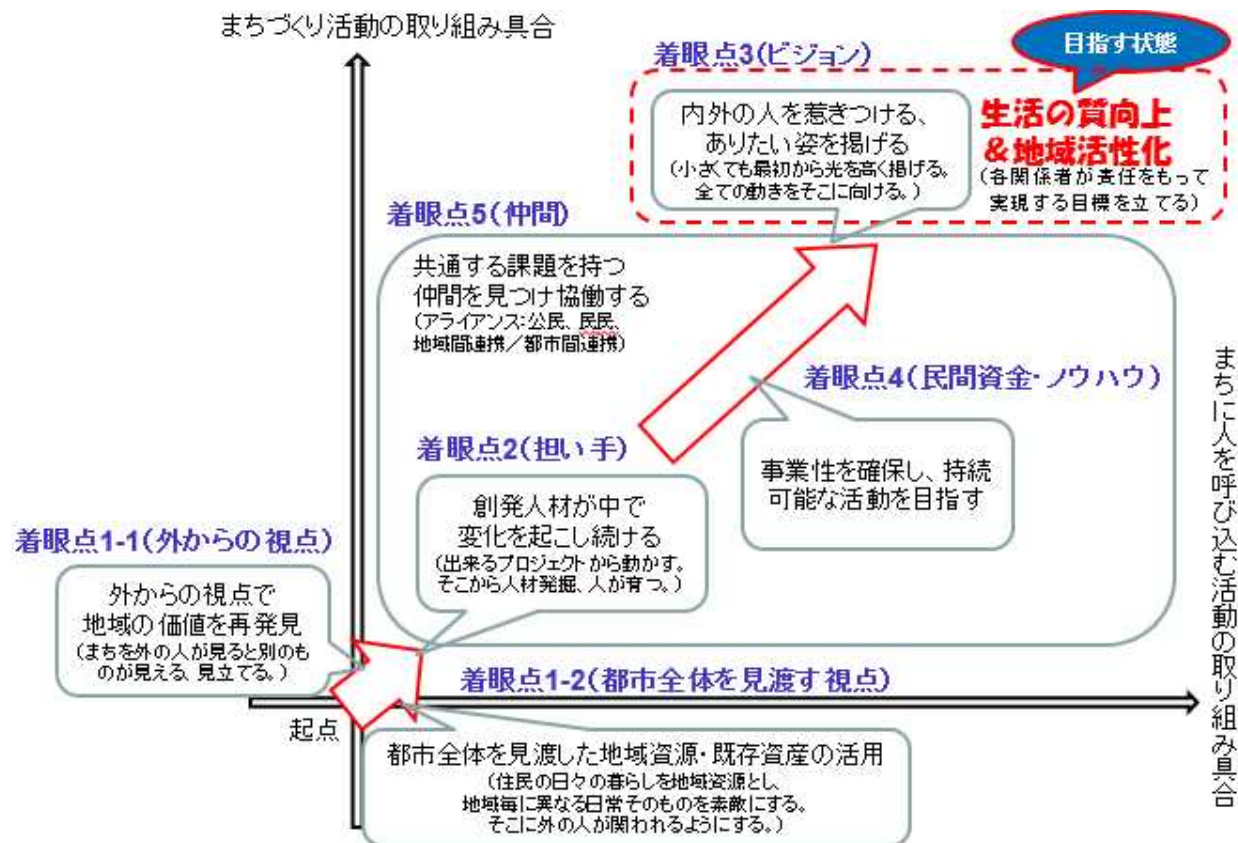


図 - 4 5つの着眼点(再掲)

「結いプロジェクト」…自己診断(結城市の場合)

まちづくり活動の取り組み具合

着眼点1-1: 外からの視点(取組中)

「結い市」や「結いのおと」などのイベントを通じて、様々なクリエイターやアーティストを呼び込んでいる。彼らの見立ても取り込み、プロジェクトメンバーが外から目線で地域の価値を再発見している。
→イベントの際は、まちが賑わうが、日常の誘客が課題。

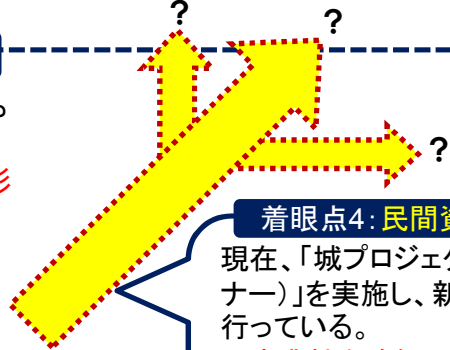


(出典: 結城市HP)

着眼点5: 仲間(取組中)

(株)TMO結城(まちづくり団体)や商工会議所とは当初より連携。
→活動エリアの拡大や組織的影響力を波及させるには、更なる行政との連携が必要。

着眼点3: ビジョン(これから)
【生活の質向上&地域活性化】
※ゴールの方向性を示し、運動体、住民、行政など、まち全体で共有することが課題。
目指す状態



着眼点4: 民間資金・ノウハウ(これから)

現在、「城プロジェクト(=創業支援セミナー)」を実施し、新たな人材の発掘等を行っている。
→事業性を確保した起業家が出てくることを期待するが、資金調達のスキームが課題。

着眼点2: 担い手(取組中)

「結いプロジェクト」の当初メンバーは、建築士、商工会議所職員、市役所職員など、地元住民中心であったが、現在では近隣市町村や都心からの応援者も出てきた。

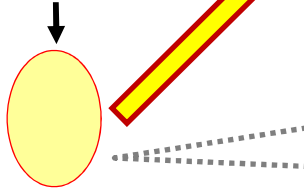
まちに人を呼び込む活動の取り組み具合

結いプロジェクト(初期段階)

着眼点1-2: 都市全体を見渡す視点(取組中)

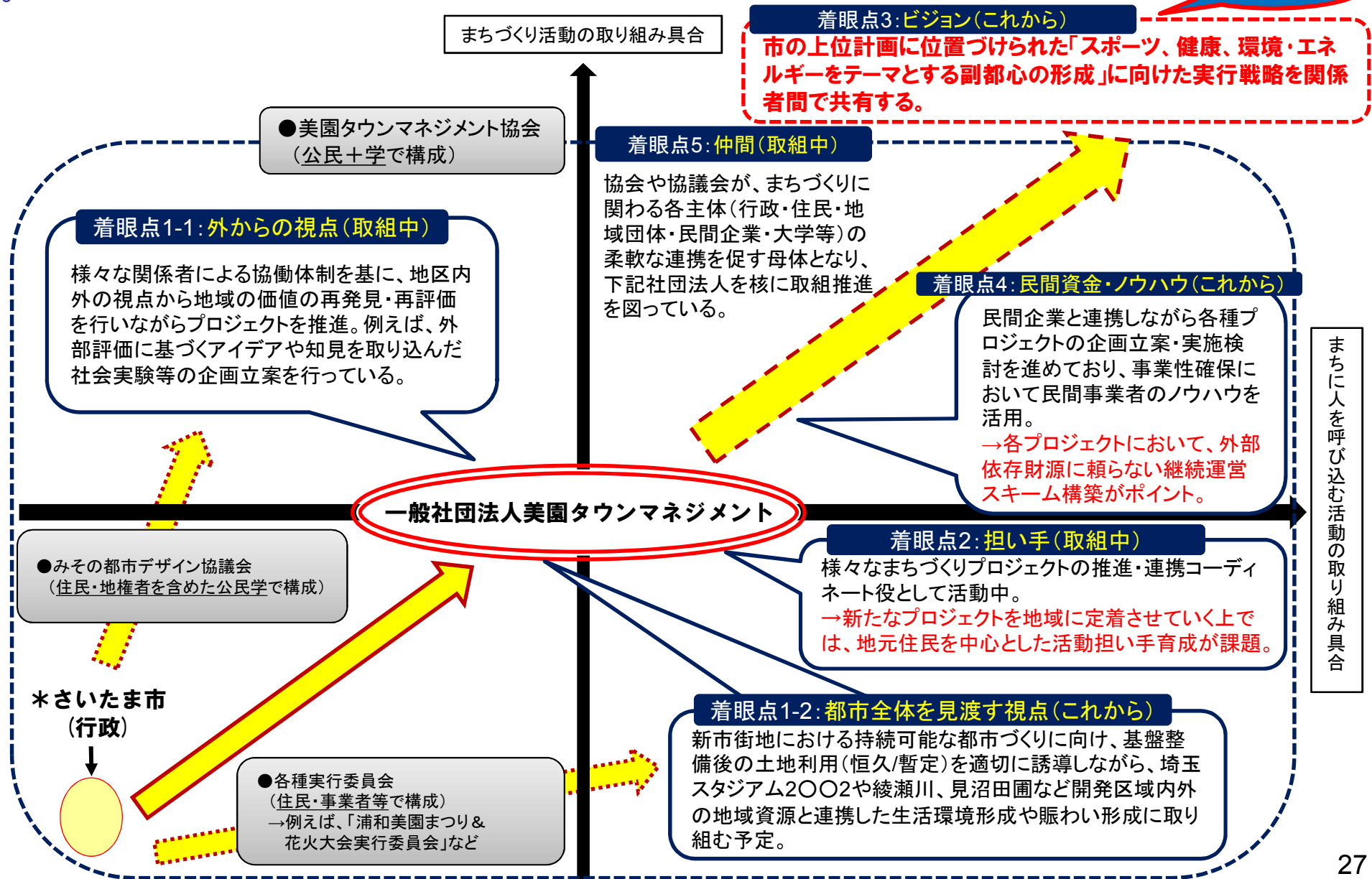
見世蔵・酒蔵、結城紬などの地域資源を活用し、魅力的な空間を創出している。
→街並み、歴史的建築物の保存には相応の財源が必要。

*結いプロジェクトの卵(創生段階)



地元の有志数名で、県の商店街活性化コンペに応募、優秀賞(限度90万円の補助金)を獲得。それをきっかけに、結いプロジェクトの卵ができた。
(商店街と子供の交流イベントを企画)

「一般社団法人美園タウンマネジメント」・・・自己診断(さいたま市の場合)



参考:「結いプロジェクト」・・・組織概要など

組織概要

- 名称: 結いプロジェクト(任意団体)
- 設立時期: 平成22年
- ・「結い(=昔の田植えなどにおける共同作業)」でつなげるまちおこしを目的とし、20歳代~30歳代の若者を中心に、「この街をもっと元気にしたい!」という思いで結成されたボランティア団体。
- ・結いプロジェクトのメンバーは、大学生、会社員、デザイナー、建築士、市役所職員など、市内外の若者で構成。
- ・主に結城市や商工会議所、(株)TMO結城(まちづくり団体)と連携し、各種イベント等を企画・運営。
- ・単なるイベントではなく、「人やモノの縁結び」を趣旨として活動を行っており、現在では市外や都心からの応援者も増えている。

結城市の特徴

- ・城下町の面影が残る街で、明治初期から大正時代に建てられた見世蔵などの歴史的建築物が多くあるが、点在していることが難点。
- ・他にも、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「結城紬」などの地域資源がある。

取組内容

- ・神社の境内や見世蔵などの様々な空間を一体的に利用し、まちなかクラフト市(=「結い市」)やまちなかコンサート(=「結いのおと」といった定期イベントを開催。
- ・最近では、結城の地域資源を活用し、起業を目指す人のための創業支援セミナー(=「城プロジェクト」)に取り組んでいる。
※「城プロジェクト」: 新規出店者(Uターン者等含む)を誘致し、結城に自分の「城」を築いてもらう活動

取組のポイント

- ①世代毎に価値観は違うため、今の活動を次世代に無理につなげない。(自分たちが楽しむ!)
- ②各々の専門家(デザイナー、建築家、行政など)が、副業的にプロジェクトに関わる。
- ③自由きままに、サークル気分で取り組む。



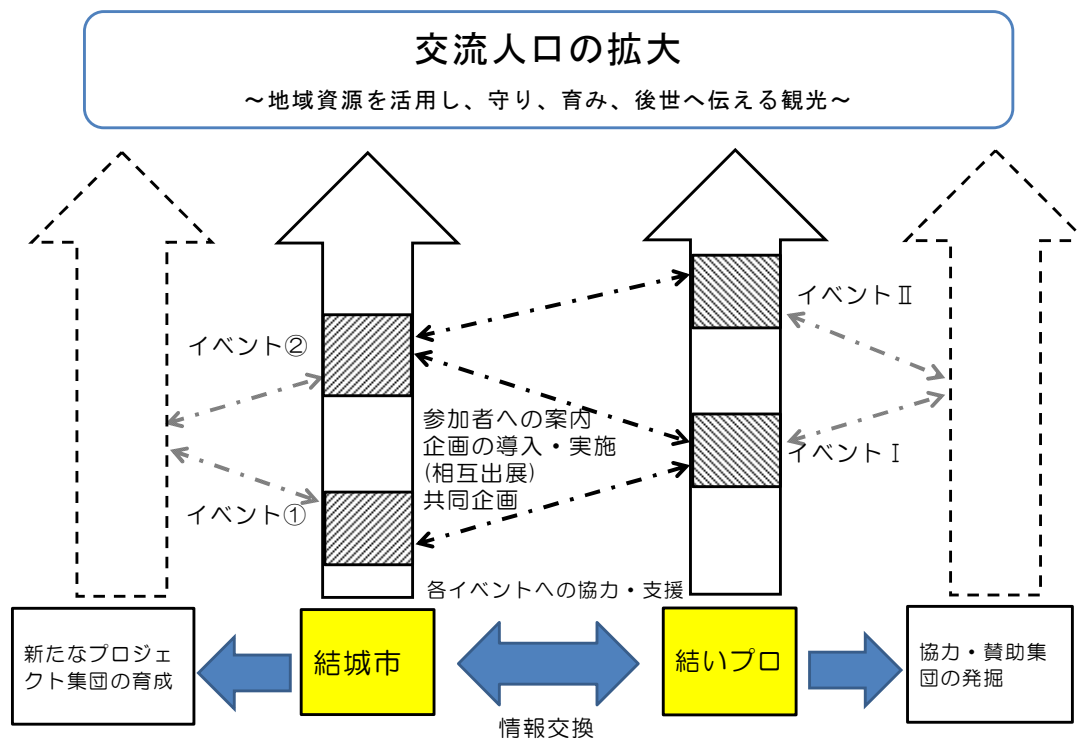
(出典: 結城市より写真提供)

第3章 着眼点を用いた方向性診断のケーススタディ(結城市)

参考:「結いプロジェクト」・・・行政との関係

- ・結城市は、「結いプロジェクト」に対し、補助金や助成金などの直接的な支援は行っていないが、イベント開催時にはお互いに協力関係にある。
- ・交流人口の拡大(=まちに外から人を呼び込む)を共通の目標として、イベントを重ねる毎、お互いのイベントに磨きをかけている。
- ・「結いプロジェクト」が行政側から過度な干渉を受けていないことも、クオリティーの高い活動に繋がっているものと考えられるが、活動開始から5年経過し、行政も巻き込んだ次の段階へステップアップすることも検討課題。

＜「結いプロジェクト」と結城市の関係図＞



(出典:結城市)



結い市



結いのおと

(出典:結城市より写真提供)

第3章 着眼点を用いた方向性診断のケーススタディ(さいたま市)

参考:「一般社団法人 美園タウンマネジメント」・・・組織概要など

組織概要

- 名称: 一般社団法人 美園タウンマネジメント
- 設立時期: 平成27年7月
- ・美園地区のまちづくりに係る「公民+学」がオープンかつフラットに連携し、新たな地域サービスの創出、良好な都市環境の形成、地域ブランド力の増進等を図り、次世代の地域マネジメントモデル「さいたまモデル」を構築・発信していくための母体組織として、「美園タウンマネジメント協会」が平成27年8月に発足。その運営事務局として、設立された社団法人。
- ・また、同年10月に開設されたまちづくり拠点施設「アーバンデザインセンターみその(略称:UDCMi)」の運営もしている。

美園地区の特徴

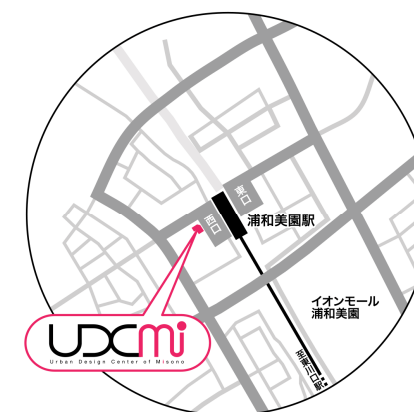
- ・美園地区は、さいたま市東南部に位置し、埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」を中心に約320haの大規模な土地区画整理事業が行われており、今後、新しいまちづくりが行われようとしている。
- ・交通の便(埼玉高速鉄道、東北自動車道)による立地ポテンシャルがあり、埼玉スタジアム2002をはじめとした公園・緑地や、綾瀬川・見沼田圃といった水や緑の環境資源も地区内外に有している。

取組内容

- ・「UDCMi(駅前一等地にシンボリックでオープンな拠点施設)」を最大限活用することで、多様な交流・連携を生み出そうとしている。
- ・先進的な実証実験等を行い、さいたま市のまちづくり施策への反映に取り組む。

取組のポイント

- ①美園地区の地元住民、新規転入者や来街者、今ある活動や新たな活動を結び、まちに対する愛着育て地区を発展・成熟させていくための「つなぎ役」として機能する。
- ②民間の力を最大限活用して、地域に対して様々な付加価値サービスを提供し、豊かな暮らしのためのプラットフォームとして機能する。

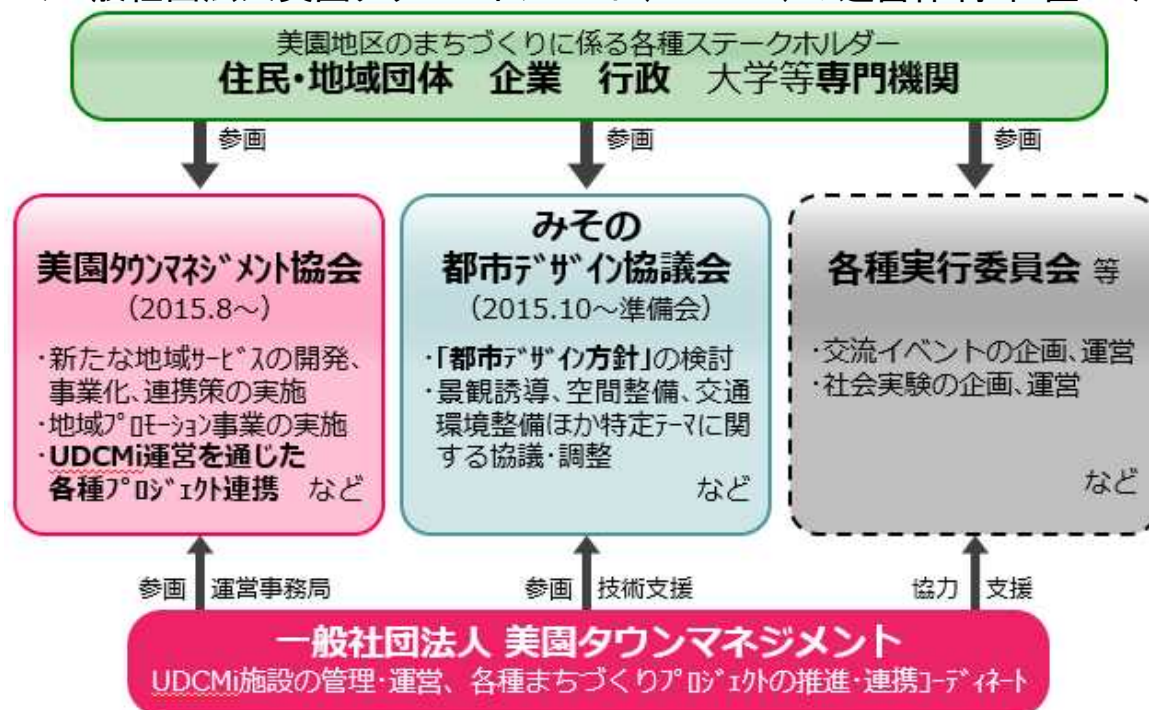


(出典:「第3回観光まちづくり検討会」
一般社団法人美園タウンマネジメント提出資料)

参考:「一般社団法人 美園タウンマネジメント」…まちづくり主体者の役割

- ・美園地区では土地区画整理事業による基盤整備が概成しつつあり、そうして整備された都市基盤施設や既存の地域資源を活用した事業・活動等が今後本格的に動き出す中で、地権者・住民・民間企業等と共いどのようにまちづくりを成熟させていくかが課題。
- ・そこで、将来ビジョンやその実現に向けた方針・戦略を共有しながら、美園地区の様々なプレイヤーの連携・役割分担に基づいて継続的に地域運営を進める仕組みを構築していくために、一般社団法人美園タウンマネジメントを核とする連携枠組みを民間や大学等と共に立ち上げた。
- ・行政と地域住民・事業者等が連携しつつ、民間活力やノウハウを最大限活用することより、豊かな暮らしの実現に向けた地域サービスを充実・強化し、魅力あるまちの発展につなげていく必要がある。

＜一般社団法人美園タウンマネジメント(UDCMi)の運営体制・位置づけ＞



(出典:「第3回観光まちづくり検討会」一般社団法人美園タウンマネジメント提出資料)



(出典:「第3回観光まちづくり検討会」埼玉高速鉄道株式会社提出資料)